

「考えよう、森林からのSOS」

亀井小学校6年 山中 雨花

最近私は、テレビでよく見かけるようになった環境問題について、気になっています。それで、いろいろと調べてみました。

環境問題について種類がいくつあるかと考えたとき、私は7つしか思いつきませんでした。よく調べてみたら、なんと13種類ものさまざまな環境問題がありました。その一つの、森林ばっ採について、注目してみました。私が森林ばっ採に注目した理由は、最近台風や大雨のたびに、土しゃくずれなどのニュースを多く見るので、なんでだろうと疑問に思ったからです。

まず、世界では、一分間にサッカーコート二十個分もの広さの森林が失われているそうです。ところが日本の森林に注目してみると、日本の森林の多くは、人口森林が多く、ばっ採等による人の手が加えられていないと、森はあれ果て、やがて土しゃくずれが多発するというのです。世界と日本では、森林の現状、森林問題が逆なのだそうです。つまり、日本で土しゃくずれのひ害が多い理由は森に、人の手が加えられていなくてあれてしまっていることにあったのです。

そこで、私はどうすればいいのだろう、だれが森林を守るのだろうと思ったのです。私は、さらに調べてみました。日本には山を守るボランティア活動をしている団体がたくさんいることがわかりました。森のあれをくいとめるために、守っている人もたくさんいるんだなあと、私は少し安心しました。しかし、そこで、終わるのではなく、私にも何かできることはないかと考えてみました。世界全体では、一本でも多くの木を植えて、森を増やしていく取り組みをしている地域があります。私はそういう少しずつの努力が大切だと思いました。

私の家には木がたくさん植えてあります。その内の一本が屋根の上までのびて、私の部屋は夏、日かげになりました。日かげではないとなりの部屋との温度を比べると2度の差がありました。グリーンカーテンのように、木にも温度を下げる力があります。私の家のまわりには木がたくさんあって、私の家のリビングは、カーテンがありません。家のまわりのたくさんのお木々が、日かげをつくってくれているので、夏の間でも、かなりすずしいのです。さらに冬は、葉がすべて落ちるので、日光が部屋の中までとどき、とても温かいです。木は酸素を作るだけでなく、このように人のくらしに役立ちます。私の家は、木に守られて暮らしているみたいです。家の庭に木を植えてみると、いいことがたくさんあります。

私の住んでいる鳩山町も、今はまだ森が豊かできれいだけど、手入れをしていかなければ、森はどんどん消えてしまいます。そのためには、今私たちが森を大切に守っていかねばいけません。これからも自然豊かな鳩山町を守っていくのは、私たちの「責任」だと思っています。

木は人間にとって、とても大切な役割を果たしてくれます。そんな木や森を、私はこわそうとは思いません。私が大人になったときも、森が豊かでありますように。今できることを精一杯やっていくつもりでいます。

『「おいしい」の秘密』

亀井小学校6年 吉田 藍

私は、小さいころ、ごはんの手べ残しをすると、母に「世界には、ごはんを食べられない人だってたくさんいるんだよ。」とよく言われました。

正直、そのころはごはんを食べられない人のことは、考えもしませんでした。なぜなら、自分にはいつもおいしいごはんがでてきたからです。

でも、ある時祖父に話を聞くことができました。祖父は、「戦争があった子どものころは米ではなく、おいもなどをよく食べていた。」と教えてくれました。

私は、「そんな厳しい時代を生きてきて、すごいなあ。」と思いました。

今の私の生活は、母に食べたい物を言えばごはんの時にできます。でも、戦争があったころは、好きな物が食べられない時代だったんだと、私は知りました。

そこで私は、世界の食料の様子がどうなっているのか知りたくて、農林水産省の「学ぼう！日本と世界の食べ物」というページを見てみました。するとそこには、全世界で、なんと八億四千万以上の人々が満足に食事をとれていないことが書いてありました。しかも、日本では一年間で五百～八百万トンの食べ物が捨てられていると書いてありました。日本のことを知り、私はすごくびっくりしました。この中に自分が残してしまった分が入っているんだと思うと、もったいないなと思えました。

世界中には、こんなに食べ物が満足に食べられない人がいるのに、日本だけでもこれだけの食べ物が捨てられると知り、私は好ききらいを無くさなくてはいけないなと思いました。

食べられない人がいるからこそ、食べられることが幸せだと感じることができます。これで、世界中の人達がみんな食事が満足にとれるようになり、食べられることが当たり前になるといいです。

今の世界は残す物が多いのに、食べられない人がいるのはとても悲しいです。今の世界の食べ物のことは、すごく複雑なことだと思いました。

もう一つびっくりしたことがあります。テレビを見ていたら、ある二つの国の中の一つの国の一週間の食べる量がすごく少なく、もう一つの国がとても多かったのです。きっとお金の問題もあると思いますが、どうしてこんなに量がちがうのだろうと思いました。私は、こんなにも食べ物の量が少ない人がいるのも、世界にあることを初めて気がつきました。

このようなことを知り、今私が目の前で食べている物について、がんばって育てている人や作っている人がいるんだということを考えるようになりました。私たちの周りにある、田んぼや畑などでつくられている米や野菜はたくさんの人が関わっていて、一つのごはんにもたくさんの人の心がこもっています。

私が今食べている給食も同じです。たくさんの手が入っている大切な食べ物だと思いま

す。やっぱり、心をこめて作ってもらった食事はおいしいです。

「おいしい」という言葉には相手をうれしくさせることができますと思います。母や父や家族。私は作った人においしいという言葉を用いることが、いちばんのほめ言葉だと思います。

「おいしい」の言葉の分、これからも作ってくれた人や食べられることに感謝をしたいと思います。そして、「おいしい」でたくさんの人に感謝する気持ちを表していきたいです。

「ペットは最後まで大切に」

今宿小学校6年 加藤 愛梨

私達の身の回りでは、たくさんの方が動物を飼育しています。動物園もその一つです。しかしインターネットなどを通じて知ったのですが、動物の殺処分も少なくありません。生き物というのは、みな同じ命を持っていて、殺処分というのは決してしてはいけないことだと、私は思います。

ある国の動物園でキリンが殺処分されたことが、ウェブサイトに掲載されていました。さらに、その動物園では来園者の前でキリンを解体した後、ライオンのおりの中に死体を投げ込んだというのです。動物園側の勝手な決定により、殺処分を実行しなければならなかった担当の人の気持ちを考えると、どんなに辛かっただろうと思います。

動物園というのは、教育の場でもあると思います。世界中のいろいろな動物を知ること、命の大切さを教える場である動物園が、どうしてキリンを殺処分したのだろうか、どうしてそのキリンの親に繁殖させたのか、キリンを守るための努力がどれだけなされたのか、私はとても悲しくなりました。

私は、動物の殺処分をなくすために身近な取り組みとして大切なことは、自分のペットを最後まで飼うことだと思います。

ただ、ペットを最後まで飼うことと、動物の殺処分をなくすことが、すぐには、結びつかない人もいるでしょう。しかし、時々見かける野良犬や野良猫も元を正せば、人が飼っていた動物を無責任に捨てたり、野生に放したりしたものです。

だから、世界中の人々が、動物を最後まで大切にすることが、動物の殺処分を減らすことにつながると 생각합니다。私もそんな社会をつくる一員になりたいと思います。

「平和な未来を築くために」

今宿小学校6年 坂元 響

「平和な暮らしが、ずっと続くこと、」これは、ぼくの考えるよりよい未来に欠かせないことです。「世界の一人一人が、食事を満足にとれること」これが平和への第一歩であり、よりよい未来への第一歩だと考えています。

ぼくは、インターネットで、満足な食事ができず、飢餓に苦しみ、厳しい生活をしている国があることを知りました。この国の動画を見て、今の日本のように平和な世界にしていきたいと実感しました。だから、今の平和な暮らしを世界に広めていきたいと思いました。

「世界には、どのくらい食料が足りない人がいるのだろうか」そう考えて、インターネットで調べてみました。そうしたら、世界で満足な食事ができない人が、八億四千万人もいることがわかりました。これは、世界の人口の約八パーセントにもものぼることがわかりました。

日本のように食料が十分に足りている国では、まだ食べられるものを捨ててしまうことがあります。日本は、一年間で、食べられる食料を五百万から八百万トンも捨ててしまっています。だから、ぼく達にできることは、食料を大切にすることだと思います。

ただ、飢餓に苦しむ国には、食料が少ないのではないかと思う人もいます。しかし、世界中の食料を平等に分けることができるとしたら、今よりも食べ物に困る国が少なくなるのではないかと思っています。一年間で生産される世界中の穀物を、平等に分けると、一人あたり三百四十キログラムだそうです。また、日本では、一人あたりの一年間の食料が、百五十九キログラムということも調べてわかりました。つまり、世界中の穀物を平等に分ければ、世界の人々が十分食べられるだけ生産されていることになります。また、穀物に加えて、野菜なども生産されています。

それでは、なぜ飢餓に苦しむ地域がなくならないのでしょうか。それは、その地域に教育が普及していない、十分な収入が得られないなど、様々な課題を抱えているそうです。

食べ物は生産されてから、ぼくたちが食べるまでには、「加工する、運ぶ、売る、買う」などたくさんの工程があります。今の時代は、物を運搬するための交通が整備されていたり、食べ物を加工して冷凍する技術が進歩したりして、世界中で食べ物を世界各地へ届けられるようになったと思います。それにもかかわらず、飢餓に苦しむ地域には、食料が足りないのです。

ぼくは、今の平和な暮らしがずっと続いてほしいと思います。十分な食事ができる地域が増えてほしいとも思っています。ぼくにできることは、世界には十分な食事ができず、厳しい生活をしている地域もあるということを考えて、食べ残しをしないことです。単純なことに聞こえるかもしれませんが、食べ物を大切に思う気持ちが平和につながり、よりよい未来へとつながっていくのだと思っています。

「私らしくほこれる自分」

鳩山小学校6年 小川 琉瑠

お母さん、お父さん、二人が私にとって理想の人であり、目標とする人です。母は、仕事でも忙しいのに家に帰ったら私の宿題が終わったのかを、きちんと見てくれます。また、新潟県に住んでいるおじいちゃん、おばあちゃんのところに行っても、二人のお手伝いをかかさずにやっています。私はそんな優しい母が大好きです。父は、夜おそくに帰ってくるときもあります。でも、私が大丈夫かといつも電話をかけてきてくれて、心配をしてくれます。また、次の日が早いときはまえもって次の日の準備をしたり、朝ご飯のしたくをしてくれたりします。自分が大変でも家族を思ってくれる父も大好きです。私はそんな母と父の良いところを見ならい、身につけていきたいと思っています。

今から六年前、鳩山小学校に入学したとき保育園の友達はいましたが、知らない子がたくさんいました。そのクラスの中に、友達になりたい子がいて声をかけるのがとても不安で、母や父に相談にのってもらい勇気を出して声をかけてみることにしました。その次の日、その子から声をかけてくるようになり、いつの間にか友達になっていました。私は自分から行動することの大切さを感じました。それからは、知らない子やしゃべったことのない子にも積極的に話しかけるように心がけました。気がつくと、友達がたくさんできていました。自分から行動することで得られる喜び、うまくいかないこともあるけれど、友達とたくさんしゃべったり、遊んだりすることの楽しさを知ることができました。

先生に対しても、話しかけるのが、苦手でした。自分の考えやわからないことを伝えるのはとてもはずかしく、なかなか話しかけることができませんでした。でも、このままだと勉強がわからなくなってしまうと思いました。がんばって先生に声をかけてみたら、わかりやすく教えてくれました。その時、私はとてもうれしく、いい気分になりました。それからは、どんどん話しかけるようになり、苦手であれだけ悩んでいたのが不思議だと思うようになりました。自分から行動することや人とコミュニケーションをとることは、自分の世界を広げてくれるような感じがしました。こういった経験をくり返しているうちに、自分からいろいろなことにチャレンジしたり、宿題などもスムーズに終わられたり、予習も自分からできたり、できることが増えていきました。

その他には、学校や家庭で自分の役割を意識して行動するようになりました。学校では、自分の感想や意見を発表したり、はじめの言葉や終わりの言葉、感想発表を自分から進んでやるようにしています。家庭では母や父が少しでも家庭の仕事がらくになるように食器洗いや、お風呂そうじなどをやるようにしています。私は料理はあまり得意ではありません。作っても失敗してしまうけれど、毎日練習して母と父においしいと言ってもらえるようにがんばりたいです。また、私はダンスも習っています。ダンスでは、年齢も上がってきて自分より下の子にダンスを教えてあげたり、アドバイスをしたりするような存在になっています。自分が下級生だったとき、年上のダンスの友達に教えてもらったりしてだん

だん自分から家で練習することが増えてきました。そのような出来事があったので、今以上に自分より下の子になんでも教えられるようにしていきたいです。

このように私は、クラスや家族、ダンス教室の一員として自分のすべきことを考えてきました。「めんどくさいな。」「やりたくないな。」と思うときもあります。だけど、動かないより動いたほうが楽しい。そう思えるようになりました。私は六年生までにこのように成長してきました。それは尊敬できる母、父が私の目標であると同時に、一生けん命私のことを支えてくれるからだと思います。また、友達や先生がいてくれるからです。私は支えてくれているすべての人にありがとうを言いたいです。支えてもらっているだけでなく、私はこれからたくさんの人を支えていきたいと思うようになりました。

私には、夢があります。一つはペットショップの店員です。私は家でクーという柴犬を飼っています。クーの世話はとても大変で、朝早くさんぼをしなければいけないし、ご飯もきちんと食べさせなければいけない。毛がぬけてその毛をそうじしなければいけないなどとても大変です。でも、私たち家族にとってかけがえのない存在です。そんな私のような体験をしていて困っている人や、これから飼おうか悩んでいる人に私の経験を話して適切なアドバイスをしていきたいです。

もう一つの夢は、ダンスの先生になることです。私は今はダンスを習っています。先生は、アドバイスや教え方がとっても上手です。ダンス教室の中では何度やってもうまくいかない子がいます。その子はいつもつまらなそうにやっていますが、先生はいつも一緒になっていてねいに教えてくれています。そのおかげで、自然とその子は笑顔がでてきました。私はこの先生のがんばりを見て、笑顔を育てる職業だなと思いました。私もこれから、ダンスの先生のように笑顔をたくさん増やしていきたいです。

最後は、私のふるさと鳩山町についての夢です。学校の勉強で鳩山町は、空き家が増えていて人口が減ってきていることを知りました。そんな鳩山町が将来、にぎやかで皆が仲の良い町になってほしいです。そのためには、鳩山町の良いところをたくさん見つけたり鳩山町の人たちと仲良くしていきたいです。

そして、いつの日か母や父のように相手のことを考えて何事にもがんばれる私らしく、ほこれる自分になりたいです。これが私の夢です。

「鳩山町の未来を明るくするために」

鳩山小学校6年 小山内 映美

鳩山町の未来が明るくなる。それは鳩山町に住んでいる人の心が明るくなるという事です。そのためには、この町に住む全ての人達が明るい笑顔であいさつをすることが大切です。

学校から配布された手紙に、元気な高齢者の割合が県内で一番多いと書いてありました。昨年も同じ内容の手紙を見たとき記憶しています。これは高齢者の皆さんが健康で豊かな生活を送っているということです。更に活気あふれる町にするには、「明るい笑顔であいさつ」を自ら実行しなければいけないと考えています。

町で出会った人に自分から笑顔であいさつをすれば、笑顔あふれる町となり、鳩山町に良い印象を受けた人が新しくこの町に引っ越して来るという可能性も出てきます。そうすれば、人口も増えて町全体が明るくなり活気もでてきます。一人ひとりが笑顔であいさつをするという小さな行動の積み重ねが私の考える未来の鳩山町に近づいていくと思います。

しかし、あいさつをするだけで未来が明るくなるとは限らないと考える人もいます。確かにとおりの一ぺんのあいさつを交わすだけではだめだと思えます。知っている人に対しても、知らない人に対しても勇気を出して、あいさつをすることが大切です。

先日、あるテレビ番組で、日本各地の特色を編集した番組が放送されました。その番組を見て、あいさつがとびかう地域に住む人達は、表情も明るく見えて生き生きしているように感じました。

「あいさつ」のもつ力は偉大だと思えました。鳩山町も、放送された地域のようにすれば、今よりもっともっと住みやすくなり、明るい未来に近づくと思いました。私は鳩山町が大すきです。

だから、今の鳩山町がもっともっと明るく住みよい町になってほしいと思えます。そして、未来も明るいものであってほしいと思えます。そのためには「明るい笑顔であいさつ」を自ら実行していきます。私一人の力は小さいけれどそのことを積み重ねていけば、回りの人達に伝わりあいさつの輪が広がっていきます。そして、やがては、町全体に広がっていくでしょう。「あいさつ」には、人の心を明るくする魔法があります。人の心が明るくなれば、鳩山町全体が今よりも更に明るく住みよい町になっていくと思えます。

「My Own Road」

鳩山中学校2年 萩谷 息吹

皆さん、こんにちは。鳩山中学校二年の萩谷息吹です。僕は、十月二十三日をもって、生徒会副会長に就任致しました。行事などを始め、学校生活をより良いものにしていくために、他の仲間達と協力をし、学校生活の先駆けとなっていきたいです。僕の目指す学校像とは、活気溢れる学校です。この目標を達成するためには、挨拶と返事を活発化していき、生徒同士や先生方と多くコミュニケーションを交わすようにしていく必要があると思います。具体的には現在、行っている挨拶運動を強化し、鳩中生に挨拶をすることを習慣づけていきたいです。

生徒会活動を行っていくうえで、自分自身注意しなくてはいけないことがあります。生徒会本部とは、学校の中心であり、顔でもあります。この事を念頭に置くと同時に、副会長としての自覚と責任を持ち、鳩山中学校を背負う立場として恥ない言動を取っていきたいです。

さて、この作文の題名である、「My Own Road」ですが、これは「自分自身の道」という意味で、合唱曲の「My Own Road～僕が創る明日～」より引用しました。今回を機に、自分自身の夢や将来について考え、それへ向けての計画や筋道を立ててみました。

僕の将来の夢は、まだしっかりと決まっていませんが、一つ気になっている職業があります。それは学校の先生です。授業だけでなく、僕たち生徒と向き合い、指導をして下さる姿に憧れたからです。今まで数え切れないほどの先生方にお世話になってきました。先月、僕のクラスの担任の先生が病を患い、一ヶ月ほど学校を休んでしまいました。このような事を経験したことがなかったため、先生がいらっしやらないと、こんなにも寂しく、大変で辛いのだなと思いました。同時に、先生がいらっしやることへの有り難さも痛感しました。もし、先生方がいらっしやらなかったら、僕たちはあらゆることを誰から教えて頂けばよいのでしょうか。

自問自答を繰り返しても、結局答えは出ませんでした。そう考えると教師という仕事は、とても立派な職業だと思います。今、僕のクラスの担任の先生は、無事、仕事に復帰されました。毎日、学校に行って先生方にお会いする度に、少しずつではありますが、教師になりたいと思う気持ちは確実に強くなっています。もし、教師という仕事に就けなかったとしても、人のため、社会のために役に立てるような仕事に就きたいと思っています。

「人のため、社会のために役に立てる人」

これが僕の最終的な目標です。具体性には欠けてしまっていますが、努力することが必要不可欠だと思います。先ほど話した教師という職業を例に挙げるのならば、やるべき事は「勉強」と「人間性を磨くこと」だと思います。まず、「勉強」についてです。教師は生徒に授業を教えることが、一番大切なことだと思います。授業をするうえで、知識がなければいけません。知識を得るためには、「勉強」が大切になってくると思うからです。また、「勉

強」だけでなく、物事を知りたいと思う探究心が必要だと思うので、今たくさん勉強をし、わからないことを知っていきたいです。

次に、「人間性を磨くこと」についてですが、これは「勉強」以上に困難だと思います。何故ならば、具体的な目標が立てにくいため、改善していくのが難しいからです。しかし、僕が生徒会副会長に立候補した大きな理由として、自分磨きをしていきたいからです。今回の生徒会活動が良い機会であると改めて認識し、たくさんの人と触れ合い、たくさんのことを学び、自分の人格を磨いていきたいと思います。僕は、努力すること自体がすごく苦手なので、小さなことからでも、できること、やれることをやっていきます。そして、将来を見出すためにも、「My Own Road」自分自身の道を一步ずつ、着実に歩いていきたいと思います。

本日は、ご静聴して頂き、ありがとうございました。

「感謝」

鳩山中学校2年 見山 愛

みなさん、こんにちは。鳩山中学校二年の見山愛です。

私は今、とても幸せです。そう感じられているのは、友達や先生方、家族の支えがあるお蔭だと思っています。中学校生活も残り約半分になったところで、ようやくそのことに気づくことができました。

私は、小さい頃から負けず嫌いで、自己主張が強く、何に対しても張り切って行動する性格であり、そこが私の長所だとも思っていました。しかし、人の長所というのは、短所と表裏一体であると私は感じています。自分の長所も、見方を変えれば、周りを見ることができず、一人で頑張りすぎてしまう面があるのかもしれません。小学校の時に、先生方から、「中学校に入ったら、友達の間で浮いてしまうのではないか…」と、心配されることもありました。ですが、今私はとても楽しく、幸せな中学校生活を送ることができています。その理由は、友達がいてくれるからです。私の周りの友達は、私の個性を受け入れてくれています。そういった友達の支えのお蔭で、私は自分の個性を長所だと感じることができ、生徒会長や、美術部の部長としての自信につながられています。だから私も、みんなの個性をよく理解し、みんなの長所を引き出せるように、周りの人をサポートしていきたいと思っています。

また、私は先生方にも支えられています。中学校に入学して、先生方からは、リーダーとして大切な部分を学ばせていただきました。それは正に、自分に欠けていた部分でもあります。小学校時代の私は、積極的に行動するあまり、何でも一人でやっけてしまいがちでしたが、人の良いところを見つけ、周りとの協力することの大切さを、中学校の生徒会活動や、行事を通して、感じることができました。今では、自分一人で物事に取り組むだけでなく、周りとの話し合い、協力し、より多くの人に活躍の場を与えられるような生徒会長になりたいと思います。そうすることが、大切なことに気づかせてくれた先生方への恩返しにもなるのではないかと思います。

また、当たり前のように感じる、今の幸せな生活は、家族の支えがあつてこそ成り立っているのだと気づくようになりました。父は片道2時間もかけて仕事に行き、家族を養ってくれています。それにも関わらず、どんなに疲れていても、私が何か相談をしたとき、必ず解決するまで付き合ってくれます。母は、家事とパートを両立しながら、愛情を持って厳しくも温かく私を育ててくれました。そして私は歴史が好きなので、両親は遺跡巡りの旅行にたくさん連れて行ってくれます。今、自分に自信を持つことができるのは、こうした両親のサポートのお蔭でもあります。家族への感謝の気持ちを忘れずに、これからも家族と仲良く過ごしていきたいです。

私は先月から、鳩山中学校の生徒会長に就任しました。正しくこれは、友達や先生方、家族の支えがあつたからこそ、就くことができた役職だと思っています。ですからこれか

らも、こうした人たちへの感謝の気持ちを忘れずに生活していきたいと思います。そして生徒会長として、生徒それぞれが活躍し、みんなが今まで以上に自分に自信を持って生活できる、そんな鳩山中学校を作っていけるよう努力していきたいと思います。

ご静聴、ありがとうございました。

「ハトミライ☆プロジェクト ～今、ボクらにできること～」

鳩山高生徒会 荒山淳、津島直輝

はじめに、私が在籍している鳩山高校では、たくさんの人を笑顔にする、“笑顔を咲かすボランティア”を行ってきました。

震災復興ボランティアや、社会を明るくする運動というあいさつ運動。その他にも、鳩山町納涼祭の屋台のお手伝いや、毎月最終週の金曜日に朝清掃活動を行いました。

鳩山高校では、先ほどもご紹介した通り、校内だけでなく、郊外での活動も活発で、生徒たちは強い意欲を持って、様々な活動に取り組んでいます。

特に、本校の情報管理課では授業内で商品を企画・開発し、外部の企業の方々と連携して商品を作り上げ、実際に鳩山町のイベントや文化祭などで販売しました。

そんな私ですが、この鳩山町は、もっと活気のある町にしていけるだろうと常日頃から感じていました。

そこで私は、鳩山高校が行ってきたボランティア活動経験を通して学んだことを、地元鳩山町の活性化に役立てていけるのではないかと思い、このたび、新たなボランティア活動を企画しました。それがハトミライ☆プロジェクトです。

プロジェクトを企画・構想していくうえで、まずは、鳩山町の問題点を考えてみました。鳩山町は現在、高齢化が進み、その人口の半数が高齢者です。それにともない、人口は減少しつつあります。

高齢化にともなう人口減少が鳩山町の課題の一つといえると思いますがそんな今だからこそ鳩山町の魅力を広めていくべきだと思いました。そこで、鳩山町の豊かな自然に目を付けました。

鳩山町といえば大自然。都市部にはない、広大な土地と緑豊かな大自然が鳩山町の特色だと思えます。そこに着目しました。

鳩山町にはおしゃもじ山をはじめとした観光スポットがいくつか存在しますが…。いずれも町内の方が足を運ぶ機会が圧倒的に多く、他の市町村から足を運んでくれる人は多いとはいえません現状です。

それなら町内だけでなく、外から足を運んでくれるような魅力的な企画があれば…と思い、鳩山町の自然に関する情報を調べ、考えてみました。そこで思いついたものが！

自然の豊かさをアピールでき、かつ景観を乱さない桜並木なら、鳩山町の新たな魅力としてアピールしていけるにふさわしいのではないかと考えました。

桜並木を作る場所の例としては…

写真は農村公園付近の長い一本道の写真ですが、例えばこのような場所に桜並木を作れば、お花見をして、農村公園でお弁当を食べたりして…などと町民同士の憩いの場も作れるのではと思いました。

目標は300本。

他の市町村にも引けを取らないものにしていこうと思っています。

農村公園を起点に、鳩山地全体を桜いっぱいにしていき、桜の名所を作りたいと思っています。しかし、ここでただ桜並木を見ただけで終わってしまうのでは足を運んでくれた人にとって、少し物足りなさを感じるのではと思いました。

鳩山町をより一層盛り上げていくために、将来的には鳩山町と連携して、桜祭りなどを開催していければと考えています。

最後にこのプロジェクトについてのまとめです。

ハトミライ☆プロジェクトは参加型の企画として構想しました。

生徒と町民の方が協力し、高齢者世代と若者世代が触れ合い、町・学校の発展にもつながる。

このプロジェクトの目標は、鳩山町と鳩高の活性化

余っている自然を有効活用し、町の発展に役立てる県内・県外における鳩山町の認知度の向上です。このプロジェクトをきっかけに鳩山町が桜でいっぱいになり、笑顔があふれることを心から楽しみにしています。

以上で、私の発表を終わります。

最後までご静聴いただき、ありがとうございました。

「栄養士の仕事は楽しい」

一般の部 高木 京子

皆さんは、栄養士はどんな仕事をしていると思いますか？献立をたてたり、栄養価を計算したり、お料理・栄養指導など食に関すること全般に渡ります。食のスペシャリストと言えると思います。

私は栄養士に憧れて、山形から上京。短期大学に入って栄養士の免許をいただきました。学校の栄養士さんは、生徒さん達が丈夫で健康に成長してくれることを考えて調理師さんたちと力を合わせて給食を作っています。残さないで食べていただきたいです。

町に麻見江ホスピタルという病院があります。あのピンクの建物ですが、最初は坂本病院と言いました。110床ほどの小さい病院でしたが、熱い厨房の中で、治療食（高血圧や糖尿病の方）を作ったり、回転釜を使って大量調理もしました。

その後、管理栄養士の試験を受ける資格ができました。息子の大学入試と一緒にしたから、競い合っただけ勉強できたことは、親子のよい思い出です。2度目のチャレンジで、48才の時、管理栄養士になることが出来ました。その後フリーになって地域活動栄養士として保健センター、近隣の役場や公民館栄養指導、離乳食づくり健康料理教室などさせていただいております。

栄養士になってよかったことは、何をどれだけ食べれば健康でいられるかわかったことです。病気にならないための食事を常に意識してとっています。若い時とは容姿はだいぶ変わりましたが、体重は同じでBMI（体格指数）は22でこられました。病気にはほとんど縁がなく薬も全く飲まずに済んでいます。一緒に暮らしていた義母も丈夫で、薬も一つ飲まずにいたのですが、肺炎にかかり、あっという間に亡くなってしまいました。享年91才でした。子供3人いますが、お陰様で皆健康で家庭を持っています。料理を作ることが好きで時間が経つのも忘れるほど、台所に立ちます。農業もしていますので、天日米で麴を作り味噌はもちろんのこと、甘酒、塩麴、発酵物は体によいので、ヨーグルトも10数年続けてる。楽しんでいることは、四季折々の食材を友人と一緒に収穫し、山しょうの実の佃煮、桑の実やブルーベリーのジャム、桜の花の塩漬け、梅シロップやカリカリ梅、シソジュース、しその佃煮。これからの季節は白菜の漬物、たくあんを漬け、ご近所や親せきの家に分けてあげて喜んでもらえることです。

ボランティアで料理教室、老人会の方との食事会開催などは、若い方から高齢の方まで、町の方々と触れあえて元気をいただいています。今日は赤飯を4升作って来ました。もち米・ささげ・ごま塩まで全て自家製です。地産地消・旬の食材で、これからも料理を町の皆さんと一緒に作って食べて、100才目指して、健康長寿で生き抜きたいと思います。

「須江で農業始めました」

一般の部 立穴 和正

こんにちは。初めまして。私の名前は立穴和正といいます。41歳です。生まれ育ったのは、兵庫県神戸市。ここ鳩山町須江に住んで9年になります。家族は嫁と、小学1年生と2歳の娘2人です。

まず、農業をはじめたきっかけを記します。

大学卒業後に山梨県清里のキャンプ場で働いていました。そこで、合宿者向けの米作り体験を担当することになりました。それまで全く田んぼや畑に入ったこともなく、むしろ小学生の時は、うまくチューリップを育てることすらできない子どもでした。そんな自分が初めて米作りを地元の農家の方から学ぶことになりました。厳しい先生でしたが、基礎から学んでいくうちに、どうやったら米が育つのか少しずつ理解することができました。体験教室では参加者と種まきや田植え、草取り、稲刈り、脱穀などをしました。準備は大変で、色々と苦労しましたが、当日みんなで作業することは楽しかったし、作業後に田んぼで食べる昼ごはんは最高においしかったです。

そこで教えてもらった米作りは有機農業でした。有機農業とは、農薬や化学肥料を使わない農業のことです。肥料は米ぬかや、わら、鶏ふん、草を肥料にして使っていました。人手が多いから出来る事ですが、ほとんどの工程が手作業で大型機械を使わない昔ながらの米作りを実践していました。農薬を使用しない田んぼには、たくさんの生き物が集まります。つばめやかえる、いなご、とんぼにやご。ゲンゴロウなどの水中生物。もちろん害虫もいますが、そこにはバランスのとれた食物連鎖がありました。そのため、害虫による被害などはあまり出ることはありませんでした。子供は安心して田んぼに裸足ではいることができ、草取りをしたり、蛙をつかまえたりしていました。

清里での5年間の経験で、米作りの魅力に取りつかれた私は、これは農業をやるしかないと決意し、退職しました。その後小川町の霜里農場でさらに本格的に1年間住みこみで農業について勉強しました。そこで私は農業に対する心構えや厳しさを学び、今の自分の農業の礎となっています。

その1年間の研修中に、体に変化が起きました。小学生のころから肌が弱く、荒れてかゆいかゆいという感じでしたが、その1年間ほとんど有機のものしか食べない暮らしで体質改善し、かゆみがなくなったのです。どんな薬を塗ってもあまり効かなかったのに、有機ってすごいなと思った瞬間でした。自分の身体は自分が食べた物で出来ているんだなと実感することが出来ました。

身上不二という言葉があります。その土地で、その季節にとれたものを食べるのが健康によいという考え方、人間の身体と土地は切り離せない関係であるという、どんなに時代が変化し、科学が進歩しても人間の根本は土から離れる事が出来ないと思いました。

小川町での研修期間中に、鳩山町須江で新規就農者用住宅の借り手を探している事を聞

きました。その家は築100年を超える古民家、遠くに見える山々の美しさ、里山の面影が残る風景、まさにとなりのトトロに出てくるような景色。すぐに気に入り、移り住むことになりました。

移住したのは平成21年春。家の近くで田んぼを借りて有機農業で米作りを始めました。初めて、一人での米作り、なめていました。田植後に出てくる草の多さに愕然。すぐに田んぼは稲がかくれるぐらいに草だらけになってしまいました。毎日草取りしても、おいつかなくて、田んぼ1枚は草に負けてしまい、収穫できませんでした。

2年目以降は草だらけになり、収穫できないという事はなくなりましたが、なかなか思うような米作りにたどりつくことは出来ません。

そして子供も生まれ、子育てという新たなミッションも加わりました。子育てしながらの農業は、病気などで計画通りに作業出来ない事もあり、そのことで余計に時間がかかったり、もう大変です。しかし、子供がいっぱいごはんを食べてくれるのを見るとすごく嬉しくて、また明日がんばろうと思います。

偶然の募集の結果、須江で始めた農業ですが、一番幸運だったことは、須江の人たちが皆、親切でいい人ばかりだったという事です。トラクターが深い泥にはまって動けなくなった時、作業を中断してくれて、機械で出してくれました。草焼き、麦踏みなど手伝ってくれました。わからない事があると、田んぼまで来て、手取り足取り教えてくれました。たくさん失敗し、いろいろと迷惑をかけてしまっていますが、周りの皆様が温かく見守ってくれているおかげで、こうして農業を続けることが出来ています。そして自分は先輩の農家の方たちを尊敬しています。早く一人前になって、自分も周りの人から信頼される農家になりたいです。

今は一町歩ぐらい（だいたい東京ドームのグラウンドの広さ）の田畑を借りて、米、大豆等を作っていますが、全部が有機無農薬というのは大変なので、半分の面積は減農薬で行ったり、収穫を組合のコンバインに頼んだりして行っています。

高齢化などで、放置された田んぼや畑が増えています。美しい田園風景が残る須江が、荒廃してしまわないよう、自分が田んぼを作ることによって保つことができればと考えます。

将来自分がやりたいことは、清里でやっていたように、この須江にも米作り体験できる場を作って、米作りのおもしろさや大変さを伝えることが出来たらと思っています。

最後に、この原稿を作るにあたって、今は亡くなってしまった米作りの先生が残してくれた言葉を思い出しました。“本当に大切な人のために食べ物は作れ！ゆっくりゆったり風のように”いつまでもこの思いを日々に、お米を食べ物を作り続けたいと思います。